



津山から世界に挑む林業を目指す 院庄林業株式会社(二宮)

昭和30年(1955)創業。製材・集成材・プレカットの工場を設立後、立木事業に着手。植林・伐採から住宅販売まで一貫した事業を展開。工程の無駄を省き、品質の向上と安定供給を目指しています。平成24年(2012)に社長に就任した、武本哲郎さんに話を聞きました。

技術革新で全国へ

創業者は鏡野町から院庄に移り、ヒノキ丸太を製材する会社を立ち上げました。創業から20年経った頃、製材の機械化・大型化を目指し、集成材工場を作りました。その際、木の水分を抜き乾燥させるから使う「乾燥材」の開発に取り組みました。木材は水を含んでいるので、時間とともに水分が抜けていくと、ねじれや割れ、縮み、ゆがみの原因になります。乾燥材の開発で会社の知名度が上がりました。平成時代にさらに大型化が進み、工場は市内だけでなく静岡県、さらには国外に進出しました。

美作ヒノキの優れた点

ヒノキの産地は岐阜県、和歌山県が有名で、岡山県の美作ヒノキの知名度は、有名産地に及びません。そのため、乾燥材の開発で、有名産地に負けない活路を見い出しました。今では、木造住宅の骨組みで、美作ヒノキの曲がりにくい品質が認められ、多くの大手住宅メーカーに出荷しています。



久米工場(くめ)

木材を世界に輸出したい

国内の産地では、多くのヒノキが伐採時期を迎えている半面、若い樹木が少ないです。このため、植林活動を続けています。津山地域は森林資源が豊富なので、この環境を生かし、国内の需要に合わせるだけでなく、海外に輸出できる体制を作りたいです。北欧などの輸出大国は、森林技術や伐採環境などが日本よりも優れ、国を挙げて森林環境を整えています。海外の取り組みを見習い、輸出体制を整えて、美作ヒノキの良さを世界の人に知ってもらいたいです。

持続可能な社会を目指して

木材は伐採と植林のサイクルを持続することで、二酸化炭素の排出を抑え、持続可能な社会を実現できます。木材の良さを広め、木材を使う環境づくりを続けていきたいです。地域の特性を生かし、津山地域の森林環境の良さを、多くの人に広めていきたいです。



社長の武本哲郎さん



作陽高校サッカー部女子が出場した、全国大会準決勝の取材と応援に行きました。激しい攻防を、訪れた大勢の人が心を合わせて応援し、スポーツ観戦の楽しみを感じました。津山でもバスケットボールなどのプロスポーツを観戦できる機会が増えています。みんなで津山のスポーツを盛り上げましょう！(※)

「お待ちいただけてよろしいですか？」よく聞く丁寧な表現です。手話を使う人に筆談で伝えようと書くと、「待つ・いただく・良い」とたくさんの言葉が入って分かりにくいそうです。「待つてください」だけでは、冷たいと不安かもしれません。書く言葉は簡単に、気持ちは表情や態度で伝えましょう！()

院庄林業の取材で、木材を海外に輸出したい話が出た時、伐採から丸太までを数分で終わる、北欧の大型機械を思い出しました。なだらかな地形の北欧と急峻な地形の日本は環境が違いため、独自の体制づくりが必要です。厳しい条件の中で挑戦する姿勢に、取材中、何度も応援したい気持ちになりました。(三)